

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Tractor sales cycle returns to normal オーストラリア

トラクタの販売サイクルが回復へ



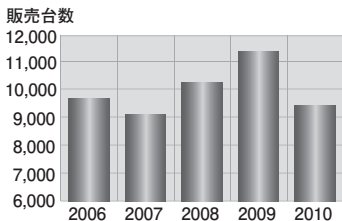
農業情報誌「アグリビュー」統計専門家であるアラン・カーステン氏は、オーストラリアにおける2010年の機械分野に関連した大きな変動は落ち着いてきており、2011年の販売サイクルは通常の水準まで戻しているとの見方を示している。非常に難しい（南半球における）冬作物の収穫時期の終わりに話した中でカーステン氏は、晩夏の作物は更りの秋を前にして生育がおおむね良好であったとの考えを述べた。

同時にカーステン氏は2009年を振り返り、オーストラリアでのトラクタ販売台数が連邦政府の投資税額控除の支援を受けて約1万1500台に達し、過去25年間で最高記録となったことに言及した。しかしながら、この支援政策の終了に伴う下振れが2010年でのキャリーオーバー効果の中で明らかになり、市場は18%後退し、販売台数は9400台まで減少した。2011年の見通しに目を向けてカーステン氏は、同年が2つの傾向に分かれつつあると解説した。

「上半期は洪水に伴うオーストラリア西部の困難な状況や収穫の遅れ（東部）、および転作する余力がないなどの影響を受ける」と説明し、「栽培穀物を変更しなければ、トラクタも変える必要がなくなる」と述べた。

これとは対照的に、カーステン氏は同年の下半期は大きく異なると予測している。年末に向けて販売が伸びるとの予測が見込まれているが、2011年の出だしの遅れにより相殺される可能性もあり、同年のトラクタ販売台数が9500台に転じるのかどうかは現時点では不明である。

オーストラリアのトラクタ市場



「アグリビュー」誌によると、オーストラリアの300馬力以上のトラクタ販売台数は2011年に増加が見込まれている。

Farmer concern over government mandates and regulation 米国

農業経営者は政府の規則・規制に懸念



米国北部の農業経営者が現在懸念していることを明確にするため、ケース・IHはジョージア州アトランタにあるワールド・コンファレンス・センターで開催された農業機械先端技術展（Ag Connect Expo / 2011年1月7〜10日）に開催された。における調査活動を支援した。

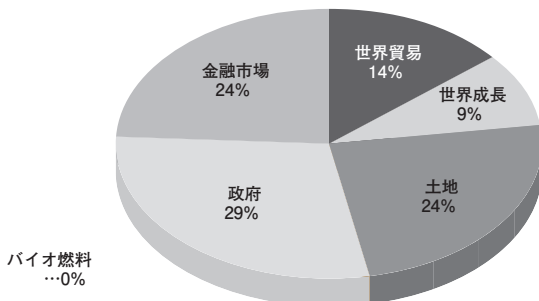
調査によると、政府による新しい規則や規制が現在2000ha以上の農業経営者の間における問題の筆頭に挙げられる。農業機械先端技術展に登場した農業経営者の30%近くが、翌年において自分の事業に最も影響を与える要因はそれらの規制であるとした。事業拡大に際しての土地の入手しやすさと価格は、世界金融市場での安定性、発展および変動要因とともに同順位で第2位であり、24%の農業経営者が懸念している。

そのほかに調査から明らかになった主な点は、米国の農業経営者の25%が農機の販売業者および専門家が、ファイナンシャルアドバイザーや農学者と並んで、意思決定に際し最も影響を与えるアドバイザーの役割を果たしている点である。また米国の農業経営者の約90%が全体として事業の成長を見込んでいる旨回答した。

中規模農業経営者に対する別のオンライン調査では25%が、翌年において自分の事業に最も影響を与える要因として事業拡大に際しての土地の入手しやすさと価格を挙げた。と価格を挙げた。と、世界金融市場での安定性、発展および変動要因（21%）がこれに続いた。そのほかの重要課題は政府による新しい規則および規制であり、同時に経済成長および世界の人口増加に起因する農産物需要の拡大などしている。

翌年の重要経営課題は何か？

回答者：農業機械先端技術展に登場した農業経営者



農業機械先端技術展における調査によると最大規模の農場において政府の規制は依然として主要な課題となっている。



Chipping with a difference
オランダ

チップ粉碎にひと工夫



定格出力70kW/90馬力のバルトラ6400トラクタはグランドクア・タイヤを装着し、操作しやすい内蔵型粉碎ユニットの本体として機能する。前部設置型のTP270チップパーは重量1,300kgで、後部ボックスの重量とのバランスを取る。

木材チップはオランダにおいて、バイオガス設備の燃料としてますます人々の興味を引いている。しかし、この「新しい」エネルギー源には問題もある。例えば、実際の粉碎作業を行なうにあたって必要となる操作設備という点では、狭い作業スペースでの操作性が重要な検討課題となる。粉碎チップを「収穫」するために、オランダの請負業者の多くはトラクタ/トラレーラ連結車を、トラクタを電源とするチップパーの横に停車させており、これが余分なスペースを取っている。巻き付け型「Cripbox」はこの問題に対応するものである。ホッパーおよびチップパーがそれぞれ後部連結部と前部に設置され、この組み合わせはバランスを保ちつつ比較的容易に限られたスペースを絞り込み、地面との設置面積を最小限にする。オランダのOBMテック社が提供する「Cripbox」は約5mのウッドチップを処理し、高さ3mまでの油圧タンクを搭載する。チップボックス単体の重量は約1tであり、満載した場合は木材の種類にもよるが最大重量は2.5tである。ボックスの価格は約1万3000ユーロである。



Opportunities for agricultural students
南アフリカ

農業大学生への体験機会



セダラの生徒は、ほとんどの最新の装備が作動する場面を見る機会を得た。リッパーや大型のディスクハローを使用した耕作は従来のプラウ耕に替わる方法として今日の南アフリカで確立されている。

バキュームタンカーは南アフリカで普及が遅れているが、大規模な乳牛群や畜舎の登場により、新しいスラリーシステムの導入が不可欠になっている。

クワズール・ナタール州にあるセダラ農業大学の歴史は1905年に始まり、南アフリカにおいて2番目に古い農業大学校である。セダラには州農業局も所在しており、主要な研究および各種助言業務も行なっている。加えて、同局は地域の天然資源の保全に関する業務も管轄しており、同校の生徒は地域社会での広範囲な科学のおよび農学的環境に恵まれている。ピーターマリツツバーク市に所在する、マッセイ・ファーガソンの販売代理店であるファーム・メンテナンス・サービス社は最近同校で実演を行ない、生徒達は最新のトラクタを見て実際に屋外で機器を操作できる機会に飛びついた。午前中のセッションは地域の農家向けのものであったが、午後にはトラクタや同社が供給しているベアラ、スラリータンカーや耕作機械などの作業機に触れて実際に動かす機会が与えられた。

